

口鼻腔吸引

普通、健康な人であれば、咳をして痰を出すことができます。しかし、呼吸に障害を持った方や体力が消耗している方などは、自分で咳をして痰を出すことができません。痰がたまると気道をふさいでしまい、十分な呼吸ができなくなります。痰や唾液を吸引器で取り除くことで呼吸を楽にし、肺炎などの感染症を予防するため必要なことです。

[準備するもの]



吸引器



吸引チューブ



吸引カテーテル



吸い上げ用水



アルコール綿

[手順]

1. 手を石けんでしっかり洗います。または速乾性のアルコール消毒液を使用して手を消毒します。
2. 吸引器が正しく作動するか、吸引圧は良いか確かめます。
吸引圧の目安: 150~200 mmHg、15~20cmHg (20~27KPs)
3. 吸引前にカテーテルをアルコール綿で拭きます。
再利用の吸引カテーテルはアルコール綿でカテーテルの中央から先端に向かって拭いて清潔にしてから使用します。

4. 吸引チューブに吸引カテーテルをつなぎ、カテーテルを挿入します。
 - ①口腔内：大きく口を開けさせカテーテルをのどの奥まで挿入します。
 - ②鼻腔内：鼻腔にそって下に向かうような感じで挿入します。挿入長さの目安は口腔：10～12cm 鼻腔：15～20cmです。
人それぞれ異なるため適切な挿入の長さの目安を確認しましょう。
5. カテーテル挿入後、先端をクルクルと回しながらゆっくりとカテーテルを抜きながら痰を吸引します。
6. 吸引後はカテーテルの外側に付いた痰を中央から先端に向かってアルコール綿でふき取り、カテーテル内は水道水を通しておきます。カテーテル内がきれいになるまで水を吸いましょう。

[手技](コツや注意点)

- ・1回の吸引で痰が取りきれない時は必要に応じて吸引の手順を繰り返します
痰をより出しやすくするために出しやすい体位にしたり、ネブライザーなどを使用します。
- ・口鼻腔粘膜は傷つきやすく出血する恐れがあります。カテーテル挿入時は無理な挿入はしないようにします。カテーテルの挿入角度の調整や左右の鼻の穴を変えるなどしましょう。
- ・痰がたまってゴロゴロいっている時、食事前や、注入前を目安に吸引します。
食事中や、注入中、その直後は、吸引の刺激で嘔吐する場合があるので、なるべく避けるようにします。必要な場合は、カテーテルをのどの手前に浅めに挿入し吸引しましょう。
- ・短時間で確実に吸引できるようにします。1回の吸引時間は10～15秒以内に行いましょう。吸引時間が必要以上に長いと息ができず危険な状態になる可能性があります。無理をしないようにしましょう。
- ・吸引の途中や後に呼吸の様子、顔色、唇の色などが悪くなっていないか注意しながら行います。状態が悪そうなら吸引をすぐに中止しましょう。痰の色や臭い、量なども観察しましょう。
- ・出血傾向のある場合は、吸引圧を低くしましょう。

[管理方法]

- ・吸引カテーテルは1日1回新しいものと交換します。また痰が詰まって吸引しにくい時はカテーテルを交換しましょう。
- ・吸い上げ用の水道水は1日1回新しいものと交換します。
- ・必要に応じて吸引チューブは1日1回消毒、乾燥します。
- ・吸引瓶は台所用洗剤などで1日1回洗浄して乾燥します。
- ・カテーテルの容器を使用する時は交換用として2個ずつ準備しておきましょう。

[消毒の手順]

- ①流水できれいに洗います。
- ②容器全体をしっかりと浸かるようにして1時間消毒します。

80倍ミルトン液・・・ミルトン液7mlに水を入れ全体で560mlになるようにする
--
- ③消毒後、しっかり乾燥します。
- ④保管するときは、ほこりがかからないようにします。